

ぼくの決心「思いやりは心のワクチン」

千葉県 聖徳大学附属小学校

2年 太田 海維

「あっ、しまった。」

ぼくがドリブルをしていたボールは、すぐにとられてしまいました。サッカークラブに入ったばかりのぼくは、いつもドリブルがつづかず、人の後ろをただ走るだけの毎日でした。

「ぼく、ぜんぜんうまくならないんだよ。」

ベンチにもどると、自分のはいているシューズを見下ろして、思わずつぶやきました。なにかがポタッと足にたれました。でもそれは、あせなのか、なみだなのかよくわかりませんでした。あたまがぼんやりするばかりです。

つぎのしゅうは、ほかのチームとのれんしゅうじあいでした。たくさんの人ばかりです。

「ぼくはせんしゅではないだろう。でも、いっしょうけんめいおうえんしよう。」

そう思い、しゅうごうばしょに走ると、コーチがとつぜん言いました。

「海維、せんぱつで行ってみろ。」

強いなつの太陽がぼくにとびかかってくるようなきもちになりました。ぼくのあせが、きんちょうともにもふきだし、あつさもかんじません。しかし、いっしょにいた仲間が、

「おまえなら、だいじょうぶ。おれたちは、ぜんいんで一つだ。」

そう言って、せなかをおしてくれました。その子の手のひらが、ぼんそうこうのようにぼくのせなかにはりつききました。太陽はさらに高く、はだにあたる日ざしがジンジンしても、せなかにはりついた仲間の手のかんしょくは、いつまでも力づよくのこっていました。

そしてぼくは、仲間からぐうぜんパスをうけ、2本のシュートを決めることができたのです。ぼくたちのチームはかちました。

「やった！やった！海維が入れた！」

仲間のかんせいが、あたまの中にワンワンひびきました。ぼくは思わず、ガッツポーズが出ました。それはシュートをきめたうれしさよりも、コーチや仲間がかけてくれた、あたたかく、力づよいはげましのことばと、せなかをおしてくれた仲間の手のかんしょくの方が、大きなよろこびと元気をくれたことに気がついたからです。

思いやりのことばはふしぎです。ぼくが好きなサッカーせんしゅのことばに、

「イワシも、たいぐんになると力がでる。みんなが心のそこから思いやりをもつことで、大きなゆめがかなうんだ。」

とあります。ぼくがサッカーにじしんをなくしていたあの日。仲間の思いやりで、なつの太陽をはじきとばすほどの力をもらいました。

思いやりの心さえあれば、それはまほうのように人をうれしくさせます。つぎはぼくが人をたすけるばんだと、けっしんしました。思いやりこそ、心のワクチンにちがいありません。

そんなワクチンを、ぼくはこれからももちつづけていきたいです。